

## 【英語】 <中学校 第1学年>

### 1 結果のポイント

- 「聞くこと」について、自然な口調で話された会話や英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力や、大まかな内容や要点を聞き取る力をみる問題では、正答率がほぼ80%を上回っている。
- 問いかげから相手の尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。
- 「読むこと」について、大まかな内容や大切な部分を読み取る力や場面に応じた適切な英語表現の使い方を理解する力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。
- 会話の流れを理解して、状況に応じて適切に応答する表現を選択する力をみる問題では、正答率が60%程度のものである。
- 「書くこと」について、与えられた場面や英文を手がかりに、内容が正しく伝わるように英文を書く力をみる問題では、正答率が80%を上回っているものがある。
- 一つの話題について、読み手を意識しながら伝える内容を整理してまとまりのある英文を書いたり、英文の構造を理解して正しい語順で書いたりする力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

### 2 結果の分析

#### (1) 問いかげに対して適切に応答する力をみる問題の例

<問題> 1 の2 (テープ問題)

次のように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回くり返して言います。

(放送文) 2 I don't know that man. Who is he?

ア She's my brother. イ He's from Hokkaido. ウ He likes music. エ He's Mr. Suzuki.

<結果> 正答率 48.7% (正答…エ)

<分析>

1 は、英語で問いかげられている内容を正しく聞き取り、それに対して適切に応答する力をみる問題である。4問中3問の正答率が60%を下回っており、昨年度と同様に応答する力が十分に身に付いているとはいえない。1 の2については、疑問詞 Who の音声の聞き取りとその意味理解ができていないことと、Who is...? に対しては、人名等を答えるという応答の仕方が理解できていないことに要因があると考えられる。また、1 の3の疑問詞 Where についても同様の傾向が見られる。これは、疑問詞の意味や応答の仕方等を整理して理解できていないことと、文頭の語に注意して聞き取ることができていないためと考えられる。今後は、言語形式による応答の仕方を正しく理解できるように指導する必要がある。

#### (2) 話の要点を読み取る力をみる問題の例

<問題> 5 の2

次のケン (Ken) のスピーチ原稿を読み、後の問いの答えとして最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

Look at this picture. This is my good friends, Mark. He is from Canada. He lives near my house now. He likes music. He likes sports, too. He plays basketball. He and I go to school and play basketball every Saturday and Sunday. We are members of the basketball club. We play it very hard.

2 このスピーチの内容に合うものはどれですか。

ア マークはアメリカ出身である。

- イ マークとケンの住んでいる家は、遠くはなれている。
- ウ マークは、スポーツ好きであるが、音楽は好きではない。
- エ ケンとマークは、週末にバスケットボールの練習をする。

<結果> 正答率 87.7% (正答…エ)

<分析>

⑤の1、2は、ある程度まとまりのある英文を読んで、概要や要点を読み取る力をみる問題である。2問とも正答率が80%を上回っていることから、この力は昨年度に引き続いて身に付いているといえる。⑤の2については、He and I ... play basketball every Saturday and Sunday. We are members of the basketball club. We play it very hard.から、ケンとマークが土曜日と日曜日にバスケットボールをすること、バスケットボールクラブの一員として一生懸命やっていることから、「週末にバスケットボールの練習すること」を読み取ることができたと考えられる。また、「読むこと」と「聞くこと」の違いはあるが、まとまりのある英文の概要や要点を理解するという点では、③は本問と関連している。③は4問の正答率の平均が80%を超え、「聞くこと」についても場面・話題等の概要や英文の要点を理解する力は、十分身に付いているといえる。

### (3) 話の流れを理解する力をみる問題の例

<問題> ⑥の1

次の英文は、タダシ (Tadashi) が友だちのジム (Jim) について書いた文です。ただ、          の部分がよく読めません。この部分をタダシにたずねる場合の英文はどれですか。

Jim is my friend. He is thirteen. He is from Australia. He likes music.  
He plays the           . He plays soccer, too. He plays it on Saturday morning.

- ア Where does he play?      イ What does he play?
- ウ Does he play soccer?      エ Do you play soccer?

<結果> 正答率 63.1% (正答…イ)

<分析>

⑥は、英文を読んで、その前後関係から話の流れを理解し、適切な表現を選択する力をみる問題である。3年前より課題となっているこの力については、今年度の正答率の平均が約68%となり、過去の類似問題と比較をすると、年々身に付いてきていることが分かる。⑥の1については、He likes music.と He plays the...の関係から、「楽器を演奏する」ということを推測し、演奏する楽器を尋ねる英文を適切に選択したと考えられる。同様に、⑥の2、⑥の3についても、正答率が70%を超えており、一連の会話の流れを理解し、適切な表現を選択する力は、着実に向上してきていると考えられる。

### (4) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> ⑧

ALT (外国人の先生) から、あなたの友だちを紹介する写真付きのカードを作ってほしいと頼まれました。あなたが紹介したい友だちについて、その友だちの好きなことや得意なことを一つ選び、3文以上で紹介文を書きなさい。ただし、最初の文は This is...で始めることとします。なお、This is...で始まる文も1文として数えます。必要があれば、紹介する内容をメモし、整理して書きなさい。

<結果> 正答率 42.2% (正答…略)

<分析>

⑧は、身近な話題について、書くべき内容を自分で考え、内容のつながりを大切にしてまとまりのある英文を書く力をみる問題である。正答率が60%を下回っており、昨年度に引き続き十分に身に付いているとはいえない。誤答の中では、She plays basketball. She speaks English very well.というように、一つ的话题を選び、その話題についてつながりを考えて書かれていないものが多かった。ただし、昨年度までは比較的、無解答率が高かったが、今年度は、3文以上書いている生徒が多く見られる。これは、生徒にとって身近なトピックを与えて書く活動や、幅広く自分の考えや意見をもてるよう、仲間と交流する活動を大切にして指導してきたことにより、書く内容を想起できる生徒が増えたからであると考えられる。

### 3 分析を踏まえた指導の改善

#### (1) 指導計画の工夫改善

- ・日常の生徒の学習状況や学習状況調査の結果を分析し、自校の課題と考えられる指導事項を重点的に扱う単元を、年間指導計画に意図的に位置付けることが大切である。課題となる力を身に付けさせるための指導の場が、確実に位置付いているか見直しを図る際には、各単元や単位時間において、評価規準を生徒の具体的な姿で明確にする必要がある。
- ・「聞くこと」「書くこと」の指導の充実を図るため、3年間を見通し、「聞くこと」の指導事項「ウ 質問や依頼などを聞いて適切に応じること」及び「書くこと」の指導事項「ウ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと」を重点的に扱う単元を設定し、その系統性・発展性を見直す必要がある。特に、「書くこと」を重点とする単元では、1年生から段階的に指導できるよう、単元の指導目標と評価規準の一覧表を作成するなどして、見直しを図る必要がある。

#### (2) 指導方法の工夫改善

- ・「聞くこと」については、1年生では言語形式による応答が確実にできるよう、疑問文（yes-no 疑問文、wh-疑問文）とその応答の仕方を正しく理解することが大切である。特に wh-疑問文については、文頭の語に注意して聞き取ることの大切さを指導し、具体的な場面設定の中で繰り返し習熟を図る必要がある。そのために、役割練習等において応答の仕方を繰り返し練習したり、動作で応答する活動を取り入れたりすることも大切である。その上で、「言語の使用場面」を身近なことから徐々に広げながら、より実践的な言語活動を設定する必要がある。
- ・「読むこと」については、会話文を聞いて、その会話の流れを理解する力を付けることが大切である。そのために、教科書題材の場面や状況を理解し、会話の流れをつかむ指導や、登場人物の気持ちになって会話文を音読する活動等を継続して行うことが大切である。その際、会話文の前後関係や複数の英文を手がかりにしながら話の流れを推測する活動や、教科書等の読み物題材において、段落のタイトル付けや文の並び替え等の活動を通して、会話の流れを理解できるように指導していくことが大切である。また、読み取りの視点をもって英文を読む指導や、段落などのまとまりごとに大切な部分をとらえる指導等も継続して行うようにする必要がある。
- ・「書くこと」については、まとまりのある英文を書く力を付けることが大切である。そのため、「書くこと」を重点とする単元で、まず、教科書題材にみられる文のつながり、まとまり等を十分に指導することが大切である。また、書く内容を想起できるよう、書く前に仲間と交流する活動を行うとともに、多様なトピックについて書くことも大切にしたい。さらには、「話すこと」が中心の授業においても、例えば、I like basketball. It is very fun.のように、伝えたい内容を代名詞や接続詞でつなげて表現するよう、指導することで、文のつながりを考えて書く力を付けることにもつながると考えられる。

#### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・「聞くこと」については、より実際の場面に近い場面で、自然な口調で話された英語を聞き取る力を付けるために、オーセンティックな学習材、CDやDVD、ALT等を有効に活用することが大切である。また、魅力的なコミュニケーションの場を設定する中で、話し手からの働きかけに対する様々な応答の仕方や場面による表現の違い等を、実践的に生徒が身に付けることができるようにする。
- ・「読むこと」については、まとまりのある英文をできるだけ多く読むことができる環境を設定することが大切である。そのために、生徒の実態及び興味・関心に応じて、教科書題材以外の英語の絵本や中学生向けの英字新聞のコーナー、ALTが作成した教材や資料等を教室や廊下に掲示するなど、授業時間以外でも英語の読み物に触れる機会をできるだけ多くつくるようにする。
- ・「書くこと」については、1年生から、ノート指導や家庭学習での単語練習の仕方、授業の復習方法等を確実に指導する。例えば、単語練習の指導において、morning 1語だけを練習するのではなく、その語句が使われている場面や状況とともに、in the morningのようなまとまりで練習したり、生徒が授業の復習として授業中に発話した英語を書く際に、2文を代名詞や接続詞でつなげて書く指導をしたりすることなどが考えられる。また、授業中に、家庭学習で練習した単語の見届けや書いた英文の発表の時間を設定するなどして、書くことに意欲的に取り組む姿勢を育てるようにする。